

# 猪苓湯

(傷寒論、少陰病) (金匱要略、消渴小便利淋病)

## 効能、効果

尿量減少、小便難、口渴を訴えるものの次の諸症：尿道炎、腎臓炎、腎石症、  
淋炎、排尿痛、血尿、腰以下の浮腫、残尿感、下痢

## 構成

猪苓3、茯苓3、滑石3、沢瀉3、阿膠3

猪苓：○ 渴して小便不利を主治す。(重校薬徴)

- 味甘平。水道を利し、傷寒温疫の大熱を解し、腫脹満を主り、  
渴を治し、湿を除く。(古方薬議、続録)

- 利水滲湿

茯苓：○ 利水を主る。故に能く停飲、宿水、小便不利、眩、悸、じゅん動を  
治し、煩躁、嘔渴、不利、咳、短気を兼治す。(重校薬徴)

- 味甘平、能く気を導き水を行らす。故に常に朮と友たり。

朮がないときは——その効復た人参と髣髴たり。(古方薬議、続録)

- 滲湿利水、補脾寧心

滑石：○ 小便不利を主治し、渴を兼治す。(重校薬徴)

- 味甘寒。小便を利し、渴を止め、煩熱心躁を除き、腸胃中の  
積聚寒熱を蕩し、能く五淋を療す。(古方薬議、続録)

- 利尿滲湿、清熱解暑

沢瀉：○ 小便不利を主治す。故に支飲、冒眩を治し、吐、渴、涎沫を兼治す。  
(重校薬徴)

- 味甘寒。痞満、消渴、淋れき、頭旋を除き、膀胱の熱を利し、  
尤も行水に長ず。(古方薬議、続録)

- 滲湿利尿、泄熱

阿膠：○ 諸血証を主治し、心煩、眠るを得ざる者を兼治す。(薬徴続録)

- 味甘平。内崩下血、腰腹痛、四肢酸疼、虚勞、羸瘦、咳嗽を主り、  
血を和し、陰を滋し、風を除き、燥を潤し、痰を化し、小便を利し、  
大腸を調う。(古方薬議、続録)

- 滋陰潤燥、補血止血

## 二味の薬徴

猪苓、茯苓：二薬とも利水滲湿作用有り、利尿効果が一層顕著になる。

茯苓、沢瀉：小便通利する働きが一層顕著になる。

+猪苓で水湿の停滞による小便不利などの諸症をちりょうすることができる。

阿膠の効能：「猪苓湯における阿膠の配剤意義について」

松田秀秋ら（近畿大学薬学部薬用資源学研究所）

猪苓湯の作用をラットの腎臓組織血流量と腎炎ラットにおける尿中蛋白排泄量、腎臓湿重量、腎臓組織血流量で評価した。○1 猪苓湯に配剤される5味を合わせて抽出した煎液は正常ラットの腎組織血流を有意に増加させた。しかし、猪苓湯から阿膠を除くと其の活性は消失し、阿膠単独エキスにも腎組織血流増加作用は認められなかった。また、抽出方法においては、阿膠以外の4味を先に抽出し、其の抽出液に阿膠の抽出エキスを加えても腎組織血流増加作用は認められなかった。○2 猪苓湯エキスと猪苓湯去阿膠エキスについて、ラットの免疫複合体による腎炎に及ぼす影響について比較検討したところ、猪苓湯エキスには腎炎の重症度を反映する尿中蛋白排泄量の増加、腎臓組織血流量の低下、血圧の上昇及び腎臓湿重量の増加を有意に抑制したが、猪苓湯去阿膠エキスには抑制作用が認められなかった。以上より、阿膠は猪苓湯エキスを作成する過程で、阿膠以外の4味中の有効成分の抽出効率を高めているか、あるいは熱水抽出時における熱分解を抑制していると考えられる。

## 古典

傷寒論：若し脈浮に、発熱し、渴して水を飲まんと欲し、小便不利の者は猪苓湯之を主る。（陽明病）陽明病、汗出づること多くして渴する者は、猪苓湯を與うべからず。汗多ければ、胃中燥く。猪苓湯は復たその小便を利するをもつての故なり。（陽明病）少陰病、下痢すること六七日、咳して嘔し、渴し、心煩して眠ることを得ざる者は、猪苓湯之を主る。

金匱要略：脈浮、発熱、渴して水を飲まんと欲し、小便不利の者は、猪苓湯之を主る。

方機（吉益東洞）：脈浮、発熱し、渴して水を飲まんと発するのは、猪苓湯の正症である。猪苓湯は、下痢、咳、嘔、渴して心煩し、眠ることができないのによい。猪苓湯は、小便淋れき、あるいは膿、血尿のあるものに用いる。

古方節義（内藤保定）：脈浮で発熱するものには熱が表にあるのであり、渴して水を飲まんと欲するものは、熱が裏にあるのである。熱があるときは、渴してよく水を消し、かえて其の水がうちに留まって小便が通じなくなるのであり、其の故に猪苓湯で小便を通じさせるのである。また、五苓散も、脈浮で小便不利に用いるとあって猪苓湯の症ににているが、五苓散は表裏の熱を解くものであって、桂枝が主要な役割をしている。これに対して猪苓湯は邪が陽明にあって、渴して小便不利のものに用いるのであり、従って滑石が主となっている。発熱、渴すとあるが、表を解く剤ではなく、裏熱を小便によってさらせるものである。またその他、雑病で熱があって、小便が通ぜず、或いは淋病、血尿の類にこの湯を用いる。

古方便覧（六角重任）：猪苓湯は、下痢、渋り腹、あるいは膿血を下すのによい。

導水さ言（和田東郭）：全身が甚だしく腫れ、手で按してみるとしっかりと力がある、その跡がすぐに起脹し、腫脹は極めて甚だしいが、呼吸は支障なく平常と変わらないものは猪苓湯の証である。また腫脹の勢いは上記と同様であるが、腰より下は満腫していても、臂肩胸背には少しも腫脹がなく、呼吸は平常と変わりがないものにも猪苓湯を与える。このような場合には、渴の有無を問わず、この湯を用いて排尿を図るべきであり、大変に効果がある。しかし、上記の二症は虚腫と紛れやすいので、脈証その他をよく精診して実腫であることを鑑別したうえで処方しなければならない。

腹証奇覧翼（和久田叔虎）：猪苓湯の腹証は、おおむね五苓散の腹状で、血証の候がある点が異なっている。血証の候は、左の臍傍、小腹に小微結が認められるのがそれである。また、猪苓湯は、五苓散の腹状であって、心煩して眠れないものを治す。一般に、腹が微結して、これを按すとやわらかで力のないものは、水気があるものとするが、ここではとくに心下における水気をつまびらかにする必要がある。また、その血証の候がある点は、芎歸膠艾湯の腹証によく似ている。しかし、芎歸膠艾湯には腹微結、小便不利、渴の証はなく、猪苓湯は渴して水を飲まんと欲し、小便不利の候があるのが鑑別点である。また五苓散は汗が出るのを目標とし、猪苓湯は汗が出ないのを目標とする。猪苓湯は、溺血および淋れき病で渴のあるものに効がある。また、婦人で小腹柔らかく、塊があるものは水血が凝結しているのであり、その軟らかい塊は帯下である。

方彙口訣（浅井貞庵）：猪苓湯を用いる第1の目的は、三焦の熱を水道へ通じ

ることである。この点、五苓散と似てはいるが同一ではない。胸中の燥く熱を通利する五苓散の桂枝と朮と、この処方阿膠、滑石と、それぞれの二味を比較して其の差別をしるべきである。ともに、口中が乾き、小便が出ないものに用いるのであるが、胸中に熱があるときは猪苓湯であり、また胃中が冷える者には五苓散である。つまり、温めなければならない場があれば、桂枝、朮の力を必要として五苓散を用い、冷やして熱をとらねばならないと判断すれば、滑石、阿膠の力を必要として猪苓湯を用いるのである。寒涼で熱をとるのが猪苓湯の主意である。

#### 大家の口訣：

**類聚方広義：**小便不利し、或いは淋れきし、渴して水を飲まんと欲するを治す。淋疾点滴して通ぜず、陰頭腫痛し、小腹膨張し、痛を為す者を治す。若し茎中痛み、膿血出ずる者は、滑石礬甘散を兼用す。妊婦、七八月已後、牝戸きん熱腫痛し、臥起すること能わず、小便淋れきする者あり。三稜鍼を以て、軽々に腫処を刺し、お水を放出して後、この方を用うれば、腫たちどころに消え、小便快利す。若し一身悉く腫れ、前症を發する者は、越婢加朮湯に宜し。少陰病、下痢すること云々は、人或いは疑って以て猪膚湯の誤りと為す。これ皆文に就いて説を為すのみ。諸を事実し、以て其の効を知るときは、則ちまたなんぞ疑を容れんや。

**方函口訣：**車前子、大黄を加え、尿血重き者を治す。黄連解毒湯を兼用す。下焦の蓄熱、利尿の専劑とす。若し上焦に邪あり、或いは表熱あれば、五苓散の証とす。凡そ利尿の品は津液の泌別を主とす。故に二方ともに能く下痢を治す。但し其の位異なるのみ。この方、下焦を主とする故に、淋疾或いは尿血を治す。その他、水腫実属する者、及び下部の水氣有って呼吸常の如くなる者に用いて能く功を奏す。

**漢方診療医典：**尿路の炎症を治し、利尿を円滑にする効があり、尿の淋れき、排尿痛、利尿の減少、口渴を目標として用いる。そのため膀胱炎、尿道炎、淋疾、尿路結石、腎盂炎、腎炎などに用いる。また不眠に用いる。本方は五苓散の桂枝と朮の代わりに、滑石と阿膠を入れたものである。猪苓、茯苓、沢瀉は利尿の効とともに、鎮静作用があり。滑石は尿路の刺激を緩和して利尿を円滑

にし、阿膠もまたこれに協力するとともに、止血、強壯、鎮静の効がある。

腎盂炎：尿意頻数、排尿痛、口渴のあるものを目標とする。また猪苓湯合四物湯としてもちいてよい場合もある。ややこじれたものには、後者がよい。

尿路結石：疝痛発作のない期間に、結石を排除する目的で使用する。口渴、尿利減少、尿の淋れき、血尿などを目標にしてもちいるが、これらの症状が著明でなこともある。膀胱結石には、本方をもちいる機会が多い。

尿路結核：腎膀胱結核には地黄剤の適応するものが多いが、時に地黄の入った薬方をもちいると、胃腸障害を起こして、下痢したり、食欲の減退したりするものがある。このような患者で、膀胱障害のあるものにもちいる。

不眠症：胃腸のあまり丈夫でない人の夢精、遺精または尿道の不快感、尿の淋れきなどがあって、安眠のできないものに用いる。

膀胱炎：最も多く用いられる処方で、急性の炎症が強く、疼痛もはなはだしく、出血をとまなうものには本方がよい。

尿道炎：排尿痛や尿意頻数があり、出血を伴う尿道炎には本方が最も多く用いられる。

男子淋疾：急性期で排尿時痛を覚え、尿意頻数し、出血などのあるものによい。

女子淋疾：尿道炎から膀胱に波及して尿意頻数、排尿時痛、血尿などを目標として用いる。

淋毒性前立腺炎：尿意頻数、排尿困難、疼痛を訴え、血尿をみるものには本方がよい。

**漢方処方解説：**応用；下焦（下腹部）の邪熱を去る。利尿の効があり、尿路の炎症を消退させる。目標；下焦の鬱熱により、下部の気と水が通利せず、気の上衝をきたすもので、脈浮、小便不利、淋れき痛または小便難、あるいは心煩（胸苦しい）、渴を目標とする。心煩は落ちつきがなく、胸騒ぎがし、いらいらして、物事が気にかかるという神経症状も含まれる。腹証は下腹部に緊満の傾向がある。

加減；本方に芍薬甘草湯を合方し、腎臓結石、膀胱結石等に用いて効果を得ている。腎、膀胱結石の出血には効果を得ている。腎膀胱結石の出血には、四物湯を合方して用いる。

漢方診療のレッスン：感染症などで五苓散の適応に準じるが、五苓散より少し病態が遷延化した場合に用いる。汗の有（五苓散）無（猪苓湯）が鑑別になることがある。泌尿器疾患で、尿意頻数、切迫感、残尿感、排尿痛、排尿時不快感を訴えることが多い。尿道炎、膀胱炎、尿路結石、腎盂腎炎、ネフローゼ、突発性腎出血、膀胱神経症。その他、前立腺肥大、前立腺炎などに用いられる。上記の泌尿器科症状にたいして長期的に用いる。この場合、四物湯と併用することが多い。

傷寒論講義：猪苓湯は裏水下焦に停滞し、其の動揺の勢によって脈浮、発熱、渴、小便不利等の証を現す者を利尿に導きて治に到らしむるの能ありと言うべきなり。

傷寒論解説：育陰清熱利水、利水しても陰を損傷せず、滋陰しても邪を停滞させることがないので、水気は去り、邪熱は解され、陰液は回復し、症状は自然に消退する。

#### 症例：

急性出血性大腸炎の1例（日原共存病院にて）

症例 63歳 女性、

主訴：下痢、粘血便

現病歴：1週間前に気管支炎にて、消炎鎮痛剤、去痰剤、抗生剤（バナン）を処方され、内服していたところ、下痢を繰り返し、粘血便が出るようになった。発熱有り、腹痛なし。

既往歴：特記事項なし、家族歴：特記事項なし、

検査：白血球の増加とCRPの上昇、緊急大腸内視鏡にて、大腸に発赤とびらん、血管の拡張を認めた。偽膜の形成は認めなかった。便培養でもClostridium difficileは陰性であった。

経過：入院し、絶食し、経静脈栄養とした。また、気管支炎に対して処方されていた薬を中止した。舌が乾燥して、黄白色の舌苔を認め、身体に熱感有り、下痢、血便を繰り返していたことから、猪苓湯7.5g/日を処方した。絶食中であつたが、猪苓湯だけは内服してもらった。症状が消失するにつれて、舌苔の色が次第に白色へ変化し、潤いが出てきた。約2週間で症状は消失し、2週後

より食事を徐々に増加していったが、下痢も粘血便も生じることなく、約1カ月入院して退院となった。

## 現代医学的研究

### ◆膀胱癌との関連について

和漢

漢方方剤の膀胱癌発癌プロモーション抑制作用（静岡県立大学薬学部漢方研究所資源研究部）

第1報：6週令のWistar系雄性ラット、initiating agentとしてN-butyl 脱N-(4-hydroxybutyl) nitrosamine (BHBN)、膀胱発癌 promoter として sodium saccharin (SS)、膀胱内上皮細胞の concanavalin A (ConA) に対する凝集能を測定し、プロモーション抑制作用の指標とした。

猪苓湯に有意の凝集作用抑制効果が認められた。すなわち、SSに対する抗プロモーター活性が認められた。

第2報：プロモーターとして、D,L-Tryptophan (Trp), Butylated hydroxyanisole (BHA), Uracil (Ura), BHBN を用いた。

猪苓湯は、複数のプロモーターに対して強い抑制作用を示した。

第3報：猪苓は使用したすべてのプロモーターに対して、滑石は BHBN 以外の4種のプロモーターに対して、単独で猪苓湯と同程度のプロモーション抑制作用を示した。阿膠は SS, Trp に対して、沢瀉は SS と BHA に対して、茯苓は SS に対してのみ単独で猪苓湯と同程度のプロモーション抑制作用を示した。

第6報：猪苓湯配合薬のなかで最も強い抗プロモーション活性を示した猪苓熱水抽出物を、BuOH-H<sub>2</sub>O で分配し、得られた分画を短期試験法で検討したところ、プロモーション抑制活性は BuOH 分画に認められた。猪苓中の脂溶性成分であるエルゴステロールの抗プロモーション作用を検討した。エルゴステロールは SS, Trp, BHA, BHBN のプロモーションを抑制した。

鑑別：五苓散、白虎加人参湯、八味丸、清心蓮子飲、五淋散、竜胆瀉肝湯  
 (漢方診療医典、泌尿器、性病編より)

処方名	処方決定の口訣
五苓散	自汗あり、尿の濁りなし(津)
清心蓮子飲	上盛下虚、平素胃腸が悪い、疲れると膀胱症状が出る、神経衰弱傾向、残尿感、貧血気味
五淋散	慢性に経過し、猪苓湯、竜胆瀉肝湯で効果のないもの、炎症のはっきりあるもの(花)
竜胆瀉肝湯	肝経の湿熱、肝経に沿って抵抗や圧痛が生じる、淋毒性のもの、軽度の炎症、尿意頻数、排尿時疼痛、辜丸炎にともなう水腫、臭気のある帯下には山帰来4を加える、
八味丸	慢性症、婦人産後、婦人科手術後の膀胱炎、小便近い、排尿後不快感、全身倦怠感、腰痛、小腹不仁、久しく白帯下止まず、
猪苓湯	自汗なし、下焦の邪熱、尿の濁り有り(津)、出血有り、排尿痛、尿意頻数、夜間尿、残尿感、口渇、排尿困難、

1 報

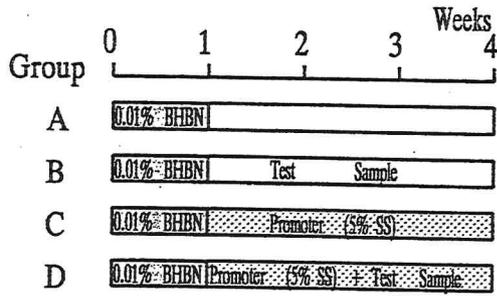


Fig. 1 Experimental design. Six-ws-old male Wistar rats were used. BHBN : *N*-Butyl-*N*-(4-hydroxybutyl) nitrosamine. SS : Saccharin Sodium.

2 報

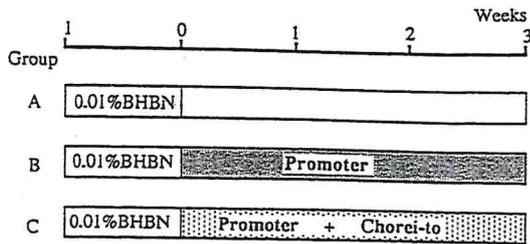


Fig. 1 Experimental Design. Promoter : 5 % SS, 3 % Trp, 2 % BHA, 3 % Ura, 0.01 % BHBN. Chorei-to : 530 mg/kg/day. Six-ws-old male Wistar rats were used (n=3).

3 報

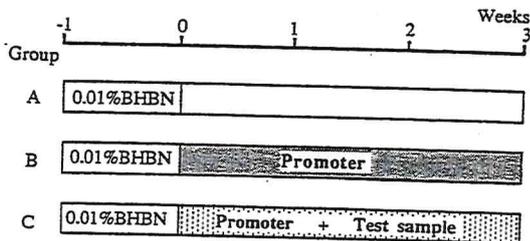


Fig. 1 Experimental design. Promoter : 5 % SS, 3 % Trp, 2 % BHA, 0.01% BHBN, 3% Ura Six-ws-old male Wistar rats were used (n = 3).

4 報

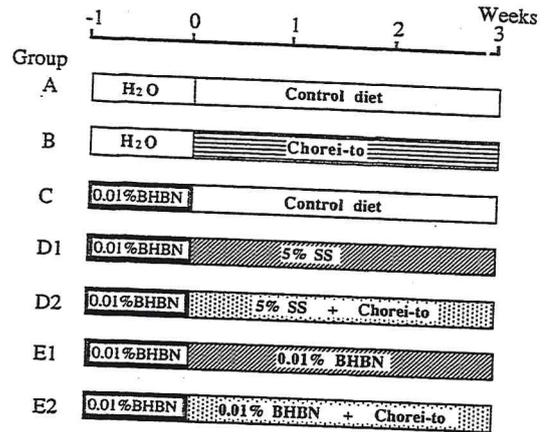
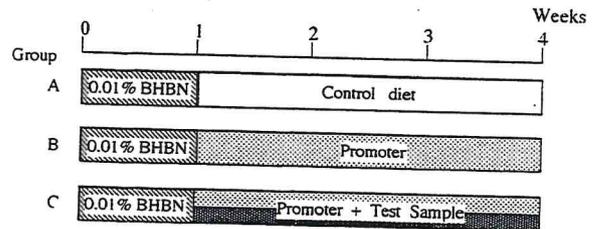


Fig. 1 Experimental design. BHBN : *N*-Butyl-*N*-(4-hydroxybutyl) nitrosamine. SS : saccharin sodium. Six-ws-old male Wistar rats were used (n=3).

6 報

### Short-term Assay



### Long-term Assay

